

【はじめに】

商品の運搬には十分、気を付けておりますが、商品到着時、万が一、破損・損傷が認められる場合はその場でドライバーに返品して下さい。開封後、お気づきになった場合は当園にご連絡下さい。後日、同等の商品と交換させていただきます。

商品代引の場合は、決済時に佐川急便が渡します控えが領収書となります。

【植え込む前に…】

商品到着後、梱包を解いて頂き、**根鉢が麻布で巻かれている場合はそのまま、ほどかず**、まずは、お水を上げて下さい。

【春～初夏・落葉前の植栽】

新芽・新葉を抱えているこの季節は、**最も水分を必要とする時期**です。移植のため、根を短く切られていますので、**十分な水やり**をお願いいたします。

葉が丸まったり、しおれたり、表土が乾いている場合は「水不足」のサインです。

午前中・夕方もしくは日没後、気温が上がる日中を避けて、水やりをして下さい。あげる時は、たっぷりたっぷりとあげて下さい。

移植当日、翌日に水をあげても葉が丸まってしまう、しおれてしまう様な場合は、**伸びすぎた枝や混みすぎた部分を中心に剪定したり、剪定せずに葉を7-8割むしり取り、人工的に落葉状態を作り、樹の負担を軽減**してあげて下さい。

【ポット・鉢・コンテナ植の場合】

これらの商品を植え替える場合は、上記の通り、**水をあげた後、落ち着いてから**、ポット・鉢から抜きます。根が固まっている場合は、軽くほぐしてから植えると良いでしょう。根を切る場合は、必ず、鉢の様な刃物をご使用下さい。**引きちぎってしまうと、新しい根が発根しなくなります。**ご注意下さい。



【根巻きものの場合】

麻布をほどくと根鉢が崩れやすくなり、植え込んだ後、樹が倒れたり、不安定になる可能性があります。

麻布も縄も時間をかけて、いずれ土になるものなので、**そのまま穴に植え込んで下さって結構**です。

どうしても気になる場合は、**麻布部分に数カ所、切り込み**を入れて下さい。

【植栽方法】

年中、水がたまっている様な粘土質土壌、極端に砂利が多い場合などでなければ、そのままの土で十分ですが、こうした土壌状態だと思われる場合やご心配な場合は、穴を一回り大きく掘り、中に市販の「園芸用土」「培養土」「腐葉土+黒土」を**ご当地の土に混ぜ込んで**頂くと活着が促せます。

植え込んで八割方、土を被せたところで水をたっぷりあげて下さい。

「ぬかるんだ」様な状態になると思いますので、そのまま、幹を持って、前後にゆすり、ドブンドブン揺らして空気を出して下さい。

水が引いてから、残りの土を被せて下さい。

移植後はたっぷりとお水を上げて下さい。この水やりが最も重要です。



加減が解らない場合や根鉢が小さい場合、ポット・鉢植えの場合は、バケツやゴミ袋に水を入れ、根鉢をつけ込んで下さい。

小さな空気泡が止まるまでつけておき、それから植え込むと良いでしょう。
生きている物なので水やりの回数は決まっておられません。
樹の状態や天候を見ながら、加減して下さい。
夏季は残暑が引くまでは水やりをして下さい。



こちらで画像付きでご案内させて頂いております。

<http://www.umedaen.com/planting1.htm>

鉢・コンテナ・ポット植のものは、自由に根を張ったり、養分を与えてくれる土も限られているので地植ものに比べ、生長が遅く、発色、樹勢が思うようではありません…が、地植にして、根付くと勢いを増します。



移植時、根が麻布で巻かれていたり、鉢やポットの形そのままに固まっている場合は、なかなか水が染み込まないので、しっかり水をあげたつもりでも思うほど水が届いていません。植栽時に軽く手でほぐし、それでも、ガチガチに固まっているような場合は、ある程度、剪定してください。

根を剪定するにはハサミなどの刃物をご使用下さい。

【支柱について】

植え込んだ後、風などが心配な場合、苗木の場合、フラフラする場合は支柱を添えてあげて下さい。棒状であれば何でもかまいません。支柱を添える場合は、幹に沿って垂直に挿し、数カ所を縄などで幹としっかり結び、固定して下さい。幹と縄がこすれる様な場合は、幹巻きテープや木綿布などを巻いて摩擦を抑えて下さい。

【肥料について】

移植と同時に与えるのは避けてください。

肥料をあげる場合は、新芽が動き出す3月頃、生長を前にする6月頃に油粕や鶏糞などの有機肥料、臭いが気になる場合は、市販の配合肥料や園芸肥料でも十分です。移植初年は「油粕」がおすすめです。腐葉土、堆肥や有機肥料を混ぜ込んだ土をご利用になる場合、完熟または完全に出来上がった物ではない場合、土中で発酵し、熱を出します。**その熱で根が焼けて枯れる要因になる場合**が少なくないので、完熟堆肥などを用いて頂くか、(天候にもよりますが)混ぜ込んで1-2ヶ月程度、移植をお待ち頂く事をお薦めします。

【病害虫について】

春～秋(3-10月頃)にかけて、虫の活動が活発になる時季は病害虫が発生し易くなります。市販の殺虫剤・殺菌剤を数回、散布すると被害を最小限に抑えたり、予防できます。稀釈(水で薄める)や薬液を混ぜ合わせるのがご心配な場合は、予め混ぜてある「**殺虫殺菌剤**」をご利用下さい。特殊な病害虫でない限り、市販のもので十分です。

ご質問・ご不明な点はお気軽にお問い合わせ下さい。

◆◇◆ 梅田園 ◆◇◆

〒190-0032 東京都立川市上砂町4-1-3

tel 042-536-2143 fax 042-534-0185

<http://www.umedaen.com> web@umedaen.com